

電氣通信設備劣化診断基準（案）  
（放流警報設備編）

平成21年3月

電気通信設備劣化診断基準（案）  
（放流警報設備編）

目 次

1	目 的	.....	付7-1
2	適用範囲	.....	付7-1
3	用語の定義	.....	付7-1
4	劣化診断の構成	.....	付7-2
5	劣化診断の概要	.....	付7-2
6	劣化診断の手法	.....	付7-4
7	機器毎の評価	.....	付7-7
8	添付資料	.....	付7-9

# 電気通信設備劣化診断基準（案）

## （放流警報設備編）

### 1 目的

現状の電気通信設備のシステム維持管理は、毎年の定期保全と、経過年数を主体とした装置・機器の更新にて、実施してきた。

しかし、装置・機器の劣化状況はおかれた環境条件や運用状態によって異なり、同種のものであっても経過年数で一律に更新することは、適切でない。

本基準（素案）は適切な時期に、河川情報関連システムを構成する設備毎に劣化診断を行い、劣化状況を把握し、改修（延命化等の対策）や更新を判断する適切な維持管理をはかる事を目的とする。

### 2 適用範囲

本基準（素案）は国土交通省が所管する河川に設置された放流警報設備に適用する。

### 3 用語の定義

本基準（素案）で用いる主な用語の定義は次による。

#### a. 施設に関する用語

「設備」：施設の機能を発揮するための備え付ける施設の構成要素で、道路情報表示設備、放流警報設備等単独で機能を持つものをいう。

「装置」：設備を構成する装置の総称で、放流警報設備では、制御監視局装置、警報局装置等をいう。

「機器」：装置を構成する機器及び器具の総称で、制御監視局装置では制御監視装置、ディスプレイ卓、警報局装置では警報装置、サイレン等をいう。

「部位」：機能を有する構成部品群をいう。

「部品」：機器を構成する組立品で、電源部、基板等がある。

#### b. 点検に関する用語

「定期保全」：定期点検及び修繕の総称をいう。

#### c. 劣化に関する用語

「劣化」：機能や性能が劣化することをいう。

「劣化診断」：設備のその時点での劣化状態を把握し、異常あるいは故障に関する原因の推定及び将来への影響を予測することをいう。

「物理的劣化」：経年変化と共に磨耗、酸化、固化等が進行し、性能・機能の低下、故障回数（故障率）の増加をきたす劣化をいう。

#### d. 寿命に関する用語

「期待寿命」：機器・部品を標準状態で使用し、劣化又は破損した場合に修繕により実用上支障のない程度まで回復させ、使用したい期間をいう。

「余寿命」：機器が、今後継続して使用可能な期間をいう。

#### e. 劣化診断に関する用語

「機能維持診断」：定期保全データの活用により、機器の劣化状況を把握し機能維持を目的とする診断である。

「余寿命診断」：劣化診断の知識を有する専門技術者が、定期保全データの活用と目視・試験測定等による機器の劣化状況の把握、製造中止部品の代替品の有無の調査等により、余寿命の判断を目的とする診断である。

#### f. 製造中止部品に関する用語

「代替品」：機器を構成する部位や部品が製造中止の状態、その部位や部品が故障した際に大幅な改造無しに交換可能で以前と同等の機能を維持できる新規に製作したものをいう。代替に大幅な改造を伴うものは代替品には含まない。

## 4 劣化診断の構成

劣化診断は、装置の劣化状況を把握し機能維持を目的とした一次機能維持診断と、一次機能維持診断の結果を受けて、各装置の機器毎に継続使用の可能性の判断を行うことを目的とした二次機能維持診断で構成する。なお、放流警報設備は一次機能維持診断のみとする。

## 5 劣化診断の概要

### (1) 機能維持診断

#### ② 一次機能維持診断

一次機能維持診断は、機能維持を目的とした診断であり、個別点検時の定期保全データと、製造中止部品及び代替品の有無、保守部品の在庫状況のデータ等を用いて機器を構成する各部位について劣化状況の診断を行う。但し、劣化がかなり進んでいることが確認された場合は、継続使用の可否の判断を目的とした診断となる。

なお、放流警報設備は、個別点検にて機能維持および性能試験の診断が可能であるので、全ての診断を一次診断にて行うものとし、二次診断は行わないものとする。

### (2) 実施時期

放流警報装置は、正常な稼働を確保する目的で、定期保全が実施されている。

劣化診断は、定期保全と深く関連するもので、その実績時期は、定期保全が実施されていることを前提に、下記を目途に実施する。

#### ① 一次機能維持診断

一次機能維持診断は、定期点検や修繕の定期保全データを用いて、設備が新設されて5年経過後から毎年1回実施する。

### (3) 診断方法

#### ① 一次機能維持診断

本診断は機器の故障・修理・再調整の状況や、機器または機器を構成する各部位における交換部品の入手状況（製造中止部品の有無、代替品の有無、メーカー又は保守会社の保守部品の在庫状況）等の把握となるので、点検データや交換部品の入手状況のデータをもとに書類上で行う。但し、放流警報設備については、個別点検の項目に一次診断に必要な劣化診断の項目を追加し、個別点検時に必要なデータを収集するものとする。

添付資料の付表4.1.1に個別点検時に追加する劣化診断に必要な診断項目一覧表を示す。

(4) 診断内容

放流警報装置を構成している機器の各部材には、長期間の稼働により各種ストレスがかかっている。そのストレスにより、各部材、部位の機能が低下し、ストレスが許容範囲を超えると劣化現象として表れ、更に進展し、故障に至しめる。故障という現象を起こす前に状況を把握し、対策を行うことが重要である。放流警報設備の各機器の劣化メカニズムを、8項「添付資料」の各機器の「主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項」の表に示す。診断内容はこれらを参考にして、以下の診断を行う。

① 一次機能維持診断

- ・経過年数：設置してからの経過年数
- ・環境条件：機器または部位の設置されている環境
- ・保全記録：過去5年間の保全記録（機器単位の点検記録、故障修理の記録）
- ・製造中止部品・代替品・保守部品の有無：製造中止部品の有無、製造中止部品の代替品の有無、製造中止部品と代替品が入手出来ない場合のメーカ又は保守会社保有の保守部品在庫状況
- ・稼働状況：異音・異臭等の目視による各部の劣化状況の判断
- ・機能維持：変色・変質・腐食・粉塵付着等の目視による各部の劣化状況の判断
- ・性能試験：電源部の電源電圧、変復調部の送受信出力の点検データ（個別点検時の測定データ）の変化のトレンド

(注) ディスプレイ卓については、一次機能維持診断にて、上記項目の内、「稼働状況」の代わりに「OSのサポート状況」の診断を行うものとする。また、性能試験では、点検時の機器の動作試験により性能の低下傾向の診断を行うものとする。

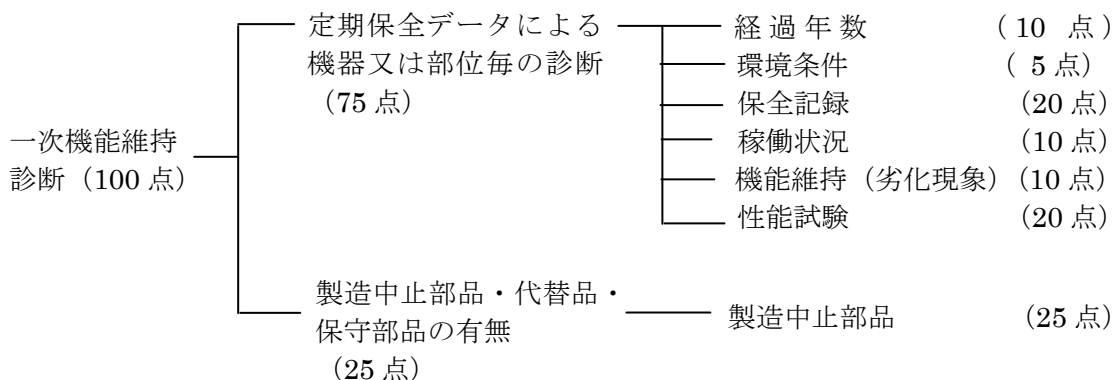
各診断内容の分類を6項(1)に、詳細を6項(2)に示す。

## 6 劣化診断の手法

### (1) 分類と重み付け

#### ① 一次機能維持診断

放流警報設備の各機器については、機器毎に過去の定期保全データ、製造中止部品とその代替品の有無及びそれらの保守部品の在庫状況により行い、分類と重み付けは以下による。

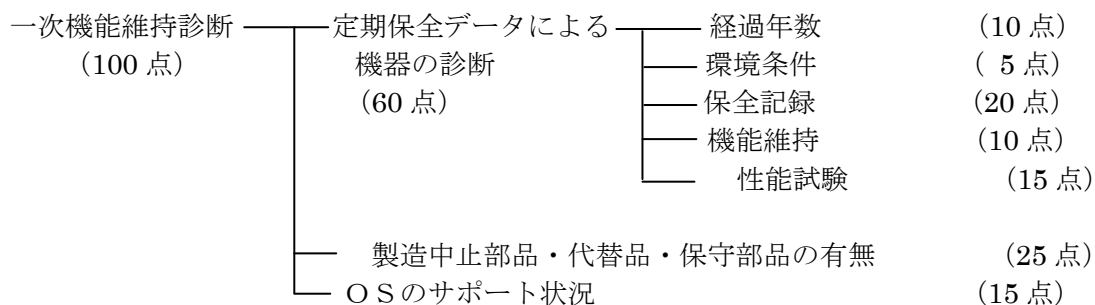


過去の「定期保全データ」は、使用期間把握の為の「経過年数」、置かれた環境の経歴把握の為の「環境条件」、過去5年間の故障、修理等の経歴による「保全記録」、直近2年間の点検時の測定データによる変化のトレンドを示す「性能試験」、異音・異臭等の「稼働状況」、変色・変質・腐食粉塵付着等の「機能維持」、電圧測定、絶縁抵抗測定等の「性能試験」に分類される。

「製造中止部品・代替品・保守部品の有無」は、メーカーからの部品製造中止の案内文書の受領によるものとし、製造中止部品の代替品の有無と、製造中止部品及び代替品の入手が不可能となった場合の、メーカー又は保守会社の保守部品在庫状況も含めて保守可能な期間について診断し、使用部品の入手、供給の制約が運用可否に直結するため、「保守が困難で更新・修理を必要としている緊急度が高い」との評価とし、高い重み付けを設定している。

重み付けは、該当する劣化の程度に応じた評価配分点によるものとし、上記の配点とする。

ディスプレイ卓については、過去の定期保全データ、「製造中止部品」として、処理部PCの製造・販売中止の状況とその代替品の有無、及びその保守中止の状況、処理部PCのOSのサポート状況、目視による各部の劣化状況の確認（機能維持）、表示制御動作の状況による性能の低下の確認（性能試験）により行い、分類と重み付けは以下による。



(2) 評価配分点の考え方

評価配分点は、0～9点とし、劣化の程度に応じて項目ごとに配点するものとする。なお、9点以上は重大な著しい劣化の発生として、その該当項目の換算評価点（D欄）を満点として評価する。

① 評価点基準

劣化現象は最高9点で配点するものとし、著しい劣化は7点以上の配点とする。

- 0点 . . . . .劣化なし
- 1点～3点 . . . 軽微な劣化、又は劣化に影響する要素がある
- 4点～6点 . . . 劣化あり、又は劣化が発生していると推定できる
- 7点～8点 . . . 劣化が著しい、又は継続的な保守が困難
- 9点 . . . . .劣化が非常に著しい、又は保守が困難で更新・修理を必要としている  
緊急度が高い

7点または9点となる配点の例を以下に示す。9点はその劣化が本来の機能を喪失させる特に重大な劣化とする。

- 例) 9点 . . . 各部の電圧が規格外である  
表示部の輝度低下や不点灯により表示内容が判読できない
- 7点 . . . 各部の電圧が規格外でありが、再調整にて復帰した

② 重み付け

重み付けは各項目の評価配分点との整合性をはかるものとする。評価配分点と重み付けについて表1に示す。

表1 評価配分点と重み付け

評価配分点	評価内容	重み付け
0	劣化なし（劣化が見られない）	—
0～3	軽微な劣化あり、又は劣化に影響する要素がある（軽微な劣化の程度のより3段階に分類）	5点
4～6	劣化あり、又は劣化が発生していると推定できる（劣化の程度により3段階に分類）	10～15点
7	劣化が著しい、又は保守が困難	15～20点
9	劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い	20～25点

③ 経過年数

経過年数は、15年以上を5点に設定する。  
ただし、ディスプレイ卓においては、PCサーバなどのコンピュータを使用しており、コンピュータメーカーにおける生産中止までの期間や保守部品供給期間が、一般的に5年～8年と一般電子機器に比べて短いため、8年以上を5点に設定し、コンピュータ類の耐用年数に合わせた設定とする。

④ 環境条件

機器の寿命に影響をおよぼす環境条件を抽出し、それぞれ3点に設定し、いずれかの項目が3点となった場合は、換算評価点（D欄）を満点として評価する。

⑤ 保全記録

- ・「点検時の再調整箇所の有無（5年間）」は、5年間での再故障個所の発生回数を評価するものとし、1回：3点、2回：4点、3回以上：5点とする。
- ・「故障・修理履歴（5年間）」は、5年間で修理の回数を評価するものとし、1回：3点、2回：4点、3回以上：5点とする。
- ・「故障発生頻度（過去1年間）」は、1年間の故障発生頻度で2回以上を重い劣化と判断し、次の評価とする。  
1回：3点、2回以上：7点

⑥ 製造中止部品・代替品・保守部品の有無

一次診断は機器または機器を構成する部位ごとの診断とし、次のとおりとする。

- ・製造中止部品なし・・・・・・・・・・・・・・・・・・0点
- ・製造中止部品有り、代替品有り・・・・・・・・・・1点
- ・製造中止部品有り、代替品無し  
ただし、保守部品3年以上有り }・・・・・・・・7点
- ・製造中止部品有り、代替品無し  
ただし、保守部品在庫3年未満 }・・・・・・・・9点

代替品なしで保守部品無しでは機器の運用に支障きたすので評価配分点は9点とし、また、重み付けは②項の表2に示すとおり、評価配分点の9点より2.5点とする。

なお、保守部品の在庫が3年未満で上限値としたのは更新等に準備期間が必要であることを考慮したものである。

なお、ディスプレイ卓においては、処理部（サーバ）のPCについて、PCメーカーによる製造・販売中止および保守中止の状況により評価を行うものとし、以下の評価配分点とする。

- ・PCの製造・販売、保守サービスが行われている・・・・・・・・0点
- ・PCの製造・販売が中止されているが、代替品がある（保守サービスは継続）  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1点
- ・PCの製造・販売中止、代替品なし、但し保守サービスは継続されている（今後3年間以上の保守・修理が可能）・・・・・・・・7点
- ・処理部（サーバ）のPCの製造・販売中止、代替品なし、保守サービスも中止または3年以内に中止が予定されている・・・・・・・・9点

⑦ 性能試験

直流電源電圧、変復調部の送受信出力等において、測定値が基準値をはずれ再調整しても規格内に調整できない場合、電源部の絶縁抵抗値が規格外の場合、表示板の表示部の輝度低下や不点灯により表示内容が判読出来ないなど重大な性能低下に結びつく場合は、劣化が著しいとして9点に設定する。

⑧ 稼働状況

異音や異臭等の状況であり、劣化を判断する指標であるため5点に設定する。

⑨ 機能維持

機器の劣化進行中に生じる現象を部位別に抽出し、現象の発生が診断対象の全体に発生している場合は、劣化が発生していると診断し5点とする。

⑩ OSのサポート状況（ディスプレイ卓のみ）

ディスプレイ卓では、処理部（サーバ）のPCのOSのサポート状況を診断するものとし、以下の評価配分点とする。

- ・OSのサポートが行われている・・・・・・・・・・・・・・・・0点
- ・OSのサポート終了が予定されている・・・・・・・・・・5点
- ・OSのサポートが終了している・・・・・・・・・・・・・・・・7点



## ウ 換算評価

機器毎の評価点合計は機器により大きく異なるため、診断を容易にする目的で、100点法に換算する。

換算評価点は表3 「一次機能維持診断表の採点方法」の考え方により行い、具体的には機能維持診断表における算出式より算出する。

表3 一次機能維持診断表の採点方法

劣化診断項目	評価配分点 A	評価点 B	重み付け C	換算評価点 $D=B/A \times C$
1.経過年数	A1	B1	C1=10	$D1=B1/A1 \times C1$
2.環境条件	A2	B2	C2=5	$D2=B2/A2 \times C2$
3.保全記録	A3	B3	C3=20	$D3=B3/A3 \times C3$
4.製造中止部品	A4	B4	C4=25	$D4=B4/A4 \times C4$
5.稼働状況	A5	B5	C5=5	$D5=B5/A5 \times C5$
6.機能維持	A6	B6	C6=15	$D6=B6/A6 \times C6$
7.性能試験	A7	B7	C7=20	$D7=B7/A7 \times C7$
換算評価点合計 (100点)				$\Sigma D1 \sim D7$

(注) ディスプレイ卓では、「稼働状況」の代わりに、「OSのサポート状況」の診断を行い、換算評価点合計は100点となる。

## 7 機器毎の評価

### (1) 分類と重み付け

診断の評価は、一次機能維持診断表、一次機能維持診断評価点基準、一次機能維持総合診断表により行うものとする。各表は8項に示す添付資料にまとめる。

### (2) 一次機能維持診断

#### ① 一次機能維持診断表

一次機能維持診断表は、一次機能維持診断の診断項目を規定し、一次機能維持診断評価点基準に則り評価点を採点し診断結果を記入するものである。

- ・「保全記録」は、機器を構成する各部位において、点検時の記録から、動作不良または規格を外れた調整箇所のリ調整の回数(過去5年間)、故障・修理の回数(過去5年間)、および故障の発生頻度(過去1年間)より評価する。
- ・「製造中止部品」は、機器を構成する各部位において、製造中止部品の有無、製造中止部品がある場合の代替品の有無、製造中止部品及び代替品の入手が不可能となった場合のメーカー又は保守会社の保守部品在庫状況の確認により、保守可能な期間の状況を診断する。
- ・「機能維持」は、機器を構成する各部位における実機での目視による劣化状況の確認を行う。
- ・「性能試験」は、機器を構成する各部位において、実機での測定によるデータと過去2年間の定期保全データによる変化のトレンドの確認、実機での動作試験による性能の低下傾向の確認等により詳細な診断を行う。

#### ② 一次機能維持診断評価点基準

一次機能維持診断評価点基準は、一次機能維持診断表の評価項目毎に劣化状況の評価する判断基準を規定したものである。

③ 評価区分と処置

一次機能維持診断にて評価点が40点以上の場合は、機器または部位の劣化が著しく進んでいるため（劣化度：重）、機器の有効性評価を経てアセットマネジメントによる評価に移行し、延命化等の対策の実施による継続使用、機器・装置の更新等の処置を判断する。

一次機能維持診断表で診断した評価点の評価区分と対応する処置を表4「一次機能維持診断の評価区分と処置」に示す。

表4 一次機能維持診断の評価区分と処置

診断種別	評価点	劣化度	処置
一次機能維持診断	40点以上	重	更新、延命化等の対策による継続使用、そのままの継続使用、及び撤去
	30点未満	軽	定期点検を継続し、機能維持に努める

注) 処置は有効性評価及びアセットマネジメントにより決定する。

④ 一次機能維持総合診断表

一次機能維持診断実施後、局毎の構成機器の診断を集約し、機器の重要度を考慮して局全体の劣化を判断するための総合診断表である。

劣化診断を部位ごとに実施すると、劣化の進行は部位によって異なるので劣化度にバラツキが発生する。総合診断表は部位ごとの劣化を機器全体で整理し、機器全体としての劣化度を把握するとともに機器全体での劣化度を判定するためのものである。

機器を構成する部位には機器にとって機能を維持するための心臓部となる重要な部位と、代替えのきく末端の部位がある。心臓部の重要な部位の劣化度が「重」と判定された時、他の末端の部位の劣化が「軽」であっても、機器全体を「重」と判定し、有効性評価及びアセットマネジメントを行うものとする。

逆に重要な部位の劣化度は「軽」であるが、重要でない部位が「重」と判定された場合は、機器全体としての劣化度は「軽」とし、その「重」と判定された部位のアセットマネジメントを行い、交換修理等を行うものとする。

## 8 添付資料

### (1) 機能維持総合診断表

#### ① 制御監視局装置

付表 1.1.1 制御監視局装置 機能維持総合診断表

#### ② 中継局装置

付表 1.2.1 中継局装置 機能維持総合診断表

#### ③ 観測局装置

付表 1.3.1 警報局装置 機能維持総合診断表

### (2) 機能維持診断表

#### ① 監視局装置

付表 2.1.1 制御監視局装置・制御監視装置 機能維持診断表

付表 2.1.2 制御監視局装置・操作卓 機能維持診断表

付表 2.1.3 制御監視局装置・ディスプレイ卓 機能維持診断表

付表 2.1.4 制御監視局装置・通話操作器 機能維持診断表

付表 2.1.5 制御監視局装置・プリンタ 機能維持診断表

付表 2.1.6 制御監視局装置・無線装置 機能維持診断表

付表 2.1.7 制御監視局装置・空中線装置 機能維持診断表

#### ② 中継局装置

付表 2.2.1 中継局装置・中継装置 機能維持診断表

付表 2.2.2 中継局装置・無線装置 機能維持診断表

付表 2.2.3 中継局装置・空中線装置 機能維持診断表

#### ③ 観測局装置

付表 2.3.1 警報局装置・警報装置 機能維持診断表

付表 2.3.2 警報局装置・直流電源装置 機能維持診断表

付表 2.3.3 警報局装置・集音マイク 機能維持診断表

付表 2.3.4 警報局装置・サイレン 機能維持診断表

付表 2.3.5 警報局装置・サイレン制御盤 機能維持診断表

付表 2.3.6 警報局装置・スピーカ 機能維持診断表

付表 2.3.7 警報局装置・回転灯 機能維持診断表

付表 2.3.8 警報局装置・回転灯制御盤 機能維持診断表

付表 2.3.9 観測局装置・無線装置 機能維持診断表

付表 2.3.10 観測局装置・空中線装置 機能維持診断表

### (3) 機能維持診断評価点基準

#### ① 監視局装置

付表 3.1.1 制御監視局装置・制御監視装置 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.2 制御監視局装置・操作卓 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.3 制御監視局装置・ディスプレイ卓 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.4 制御監視局装置・通話操作器 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.5 制御監視局装置・プリンタ 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.6 制御監視局装置・無線装置 機能維持診断評価点基準

付表 3.1.7 制御監視局装置・空中線装置 機能維持診断評価点基準

#### ② 中継局装置

付表 3.2.1 中継局装置・中継装置 機能維持診断評価点基準

付表 3.2.2 中継局装置・無線装置 機能維持診断評価点基準

付表 3.2.3 中継局装置・空中線装置 機能維持診断評価点基準

③ 観測局装置		
付表 3.3.1	警報局装置・警報装置	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.2	警報局装置・直流電源装置	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.3	警報局装置・集音マイク	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.4	警報局装置・サイレン	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.5	警報局装置・サイレン制御盤	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.6	警報局装置・スピーカ	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.7	警報局装置・回転灯	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.8	警報局装置・回転灯制御盤	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.9	観測局装置・無線装置	機能維持診断評価点基準
付表 3.3.10	観測局装置・空中線装置	機能維持診断評価点基準

(4) 点検に追加する診断項目一覧表

付表 4.1.1	点検に追加する診断項目一覧表
----------	----------------

(5) 主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

① 監視局装置	
付表 5.1.1	制御監視装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.2	操作卓の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.3	ディスプレイ卓の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.4	通話操作器の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.5	プリンタの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.6	無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.1.7	空中線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
② 中継局装置	
付表 5.2.1	中継装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.2.2	無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.2.3	空中線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
③ 観測局装置	
付表 5.3.1	警報装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.2	直流電源装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.3	集音マイクの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.4	サイレンの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.5	サイレン制御盤の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.6	スピーカの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.7	回転灯の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.8	回転灯制御盤の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.9	無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項
付表 5.3.10	空中線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

付表1.1.1 放流警報設備:制御監視局装置 機能維持総合診断表

設置場所							形 式	
設備名称							定 格	
用 途							仕 様	
製造年月								
製造者名								
診断日							診断実施者	
項 目	換算評価点							備 考
	制御監視装置	操作卓	ディスプレイ卓	通話操作器	プリンタ	無線装置	空中線装置	
製造年月	年 月	年 月	年 月		年 月	年 月	年 月	
1. 経過年数								
2. 環境条件								
3. 保全記録								
4. 製造中止部品								
5. 稼働状況								
6. 機能維持								
7. 性能試験								
換算評価点								
重要度	○							
特記事項								
診断のまとめ								

備考1. 換算評価点が40点以上となる機器については、更新又は修理の必要性、保守部品が無くなり保守不能となるまでの期間、及び機器単位での更新・修理の費用を確認する。

これらの条件を検討し、機器の更新・修理を行うものとする。

備考2. 重要度欄に○印のある部位は、機器の換算評価点が40点以上の場合に装置全体での更新が望ましい部位を示す。

付表1.2.1 放流警報設備:中継局装置 機能維持総合診断表

設置場所						形 式	
設備名称						定 格	
用 途						仕 様	
製造年月							
製造者名							
診断日						診断実施者	
項 目	換算評価点						備 考
	中継装置	無線装置	空中線装置				
製造年月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	
1. 経過年数							
2. 環境条件							
3. 保全記録							
4. 製造中止部品							
5. 稼働状況							
6. 機能維持							
7. 性能試験							
換算評価点							
重要度	○						
特記事項							
診断のまとめ							

備考1. 換算評価点が40点以上となる機器については、更新又は修理の必要性、保守部品が無くなり保守不能となるまでの期間、及び機器単位での更新・修理の費用を確認する。

これらの条件を検討し、機器の更新・修理を行うものとする。

備考2. 重要度欄に○印のある部位は、機器の換算評価点が40点以上の場合に装置全体での更新が望ましい部位を示す。

付表1.3.1 放流警報設備:警報局装置 機能維持総合診断表(1/2)

設置場所						形 式	
設備名称						定 格	
用 途						仕 様	
製造年月							
製造者名							
診断日						診断実施者	
項 目	換算評価点						備 考
	警報装置	直流電源装置	集音マイク	サイレン	サイレン制御盤	スピーカ	
製造年月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	
1. 経過年数							
2. 環境条件							
3. 保全記録							
4. 製造中止部品							
5. 稼働状況							
6. 機能維持							
7. 性能試験							
換算評価点							
重要度	○						
特記事項							
診断のまとめ							

備考1. 換算評価点が40点以上となる機器については、更新又は修理の必要性、保守部品が無くなり保守不能となるまでの期間、及び機器単位での更新・修理の費用を確認する。

これらの条件を検討し、機器の更新・修理を行うものとする。

備考2. 重要度欄に○印のある部位は、機器の換算評価点が40点以上の場合に装置全体での更新が望ましい部位を示す。

付表1.3.1 放流警報設備:警報局装置 機能維持総合診断表(2/2)

設置場所						形 式	
設備名称						定 格	
用 途						仕 様	
製造年月							
製造者名							
診断日						診断実施者	
項 目	換算評価点						備 考
	回 転 灯	回 転 灯 制 御 盤	無 線 装 置	空 中 線 装 置			
製造年月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	
1. 経過年数							
2. 環境条件							
3. 保全記録							
4. 製造中止部品							
5. 稼働状況							
6. 機能維持							
7. 性能試験							
換算評価点							
重要度							
特記事項							
診断のまとめ							

備考1. 換算評価点が40点以上となる機器については、更新又は修理の必要性、保守部品が無くなり保守不能となるまでの期間、及び機器単位での更新・修理の費用を確認する。

これらの条件を検討し、機器の更新・修理を行うものとする。

備考2. 重要度欄に○印のある部位は、機器の換算評価点が40点以上の場合に装置全体での更新が望ましい部位を示す。



付表2.1.1 放流警報設備:制御監視局装置・制御監視装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td><math>K1 &lt; 8</math></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td><math>8 \leq K1 &lt; 12</math></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td><math>12 \leq K1 &lt; 15</math></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td><math>15 \leq K1</math></td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	$K1 < 8$	0	$8 \leq K1 < 12$	2	$12 \leq K1 < 15$	4	$15 \leq K1$	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
$K1 < 8$	0															
$8 \leq K1 < 12$	2															
$12 \leq K1 < 15$	4															
$15 \leq K1$	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。						
	a.	空調設備の有無														
b.	塵埃付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.1.1 放流警報設備:制御監視局装置・制御監視装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)筐体 (架台含む)	① 塗装剥離、発錆、腐食	5	10			
		② 歪み	5				
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食	5				
		② 各基板の変色、腐食	5				
	3)表示・ 操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
	(小計)	30	0				
7 性能試験	1)システム の確認	① 各部の電圧のトレンド確認(規定値以内) (注2)	9	20			1項目でも9点 の場合、D欄は 20点とする。
		② 受信レベルのトレンド確認(注2)	9				
		③ 送信レベルのトレンド確認(注2)	9				
	2)通話	① 通話機能	7				
	(小計)	34	0				
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断の まとめ	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.1.2 放流警報設備:制御監視局装置・操作卓 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td><math>K1 &lt; 8</math></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td><math>8 \leq K1 &lt; 12</math></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td><math>12 \leq K1 &lt; 15</math></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td><math>15 \leq K1</math></td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	$K1 < 8$	0	$8 \leq K1 < 12$	2	$12 \leq K1 < 15$	4	$15 \leq K1$	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
$K1 < 8$	0															
$8 \leq K1 < 12$	2															
$12 \leq K1 < 15$	4															
$15 \leq K1$	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。						
	a.	空調設備の有無														
b.	塵埃付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.1.2 放流警報設備:制御監視局装置・操作卓 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)筐体 (架台含む)	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10		
		② 歪み	5				
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食	5				
		② 各基板の変色、腐食	5				
	3)表示・ 操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	① 各部の電圧のトレンド確認(規定値以内) (注2)	9		20		1項目でも9点の場合、D欄は20点	
	② 通話機能及び放送のモニタ	7					
	③ 放送機能：音量	9					
	④ 放送機能：音質	9					
		(小計)	34				
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.1.3 放流警報設備:制御監視局装置・ディスプレイ卓 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果										
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考							
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5≤K1&lt;8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>8≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<5	0	5≤K1<8	3	8≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点												
K1<5	0													
5≤K1<8	3													
8≤K1	5													
		(小計)	5	0										
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	空調設備の有無												
b.	塵埃付着													
		(小計)	3	0										
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20									
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5											
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7											
		(小計)	17	0										
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無(注2)	9		25									
		(小計)	9	0										
5. OSのサポート状況	①	処理部(サーバ)のOSのサポート状況(注3)	5		15									
		(小計)	5	0										

付表2.1.3 放流警報設備:制御監視局装置・ディスプレイ卓 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6. 機能維持	①	制御部(サーバ本体)の塵埃付着	5		10		点検時の報告内容による。
	②	表示部(ディスプレイ)の表示状態	5				
	③	操作部(キーボード、マウス等)の操作性	3				
		(小計)	13	0			
7. 性能試験	①	表示制御動作確認(動作速度低下、不安定動作等の有無)	7		15		同上
		(小計)	7				
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項(注4)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 処理部(サーバ)及び周辺機器の製造・販売中止、代替品の有無、保守中止の状況について評価を行う。

(注3) 処理部(サーバ)のOSサポート終了等の状況について評価を行う。

(注4) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.1.4 放流警報設備:制御監視局装置・通話操作器 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td><math>K1 &lt; 8</math></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td><math>8 \leq K1 &lt; 12</math></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td><math>12 \leq K1 &lt; 15</math></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td><math>15 \leq K1</math></td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	$K1 < 8$	0	$8 \leq K1 < 12$	2	$12 \leq K1 < 15$	4	$15 \leq K1$	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
$K1 < 8$	0															
$8 \leq K1 < 12$	2															
$12 \leq K1 < 15$	4															
$15 \leq K1$	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。						
	a.	空調設備の有無														
b.	塵埃付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.1.4 放流警報設備:制御監視局装置・通話操作器 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果		
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)
6 機能維持	1)筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10	
		② 歪み	5			
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食	5			
		② 各基板の変色、腐食	5			
	3)表示・操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5			
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5			
		(小計)	30	0		
7. 性能試験	① 各部の電圧のトレンド確認(規定値以内) (注2)	9		20	1項目でも9点の場合、D欄は20点	
	② 通話機能及び放送のモニタ	7				
	③ 放送機能：音量	9				
	④ 放送機能：音質	9				
		(小計)	34			
換算評価点合計			(100点換算評価)			
診断のまとめ	点検時の特記事項(注3)					
	その他					

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。



付表2.1.5 放流警報設備:制御監視局装置・プリンタ 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。						
	a.	空調設備の有無														
b.	塵埃付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異音の発生	5		10											
	②	異臭の発生	5													
		(小計)	10	0												

付表2.1.5 放流警報設備:制御監視局装置・プリンタ 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6. 機能維持	①	文字かすれ	2		20		
	②	紙送り	2				
	③	通信	3				
		(小計)	7				
7. 性能試験	①	記載内容なし					
		(小計)	0				
			換算評価点合計	(80点換算評価)			
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.1.6 放流警報設備:制御監視局装置・無線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td><math>K1 &lt; 8</math></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td><math>8 \leq K1 &lt; 12</math></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td><math>12 \leq K1 &lt; 15</math></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td><math>15 \leq K1</math></td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	$K1 < 8$	0	$8 \leq K1 < 12$	2	$12 \leq K1 < 15$	4	$15 \leq K1$	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
$K1 < 8$	0															
$8 \leq K1 < 12$	2															
$12 \leq K1 < 15$	4															
$15 \leq K1$	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>空調設備の有無</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>塵埃付着</td> </tr> </table>	a.	空調設備の有無	b.	塵埃付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。						
	a.	空調設備の有無														
b.	塵埃付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.1.6 放流警報設備:制御監視局装置・無線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)外部箱	①	塗装剥離、発錆、腐食	5	10		
	2)端子部	①	変色、腐食	5			
	3)回路部	①	変色、腐食	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験	①		送信出力測定	9	20		1項目でも9点の場合、D欄は20点とする。
	②		送信周波数測定	9			
	③		最大周波数偏移測定	9			
	④		スプリアス発射強度測定	9			
	⑤		受信入力電力測定	9			
	⑥		S/N測定	7			
		(小計)	52				
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.1.7 放流警報設備:制御監視局装置・空中線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
		経過年数 (K1)	評価点													
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
(小計)	5	0														
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
		a.	塩害													
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
(小計)	3	0														
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
	(小計)		17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
	(小計)		9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
	(小計)		5	0												

付表2.1.7 放流警報設備:制御監視局装置・空中線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価 配分点 A	診断結果			備考
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	
6 機能 維持	1)アンテナ	①	塗装剥離、発錆、腐食	5		10	
	2)接続部	①	変色	5			
	3)配線	①	配線・配線接続部の腐食及び粉塵付着	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験	①		定在波比測定値(注2)	9		20	
			(小計)	9			
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断の まとめ	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 定在波比測定値は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.2.1 放流警報設備：中継局装置・中継装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.2.1 放流警報設備：中継局装置・中継装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)筐体 (架台含む)	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10		
		② 歪み	5				
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3)表示・ 操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
	(小計)	30	0				
7 性能試験	1)システム の確認	① 各部の電圧のトレンド確認(規定値以内) (注2)	9		20		1項目でも9点の場合、D欄は20点とする。
		② 受信レベルのトレンド確認(注2)	9				
		③ 送信レベルのトレンド確認(注2)	9				
	2)通話	① 通話機能	7				
	(小計)	34	0				
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。



付表2.2.2 放流警報設備:中継局装置・無線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.2.2 放流警報設備：中継局装置・無線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	備考
6 機能維持	1)外部箱	①	塗装剥離、発錆、腐食	5	10		
	2)端子部	①	変色、腐食、粉塵付着	5			
	3)回路部	①	変色、腐食、粉塵付着	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験	①		送信出力測定	9	20		1項目でも9点の場合、D欄は20点とする。
	②		送信周波数測定	9			
	③		最大周波数偏移測定	9			
	④		スプリアス発射強度測定	9			
	⑤		受信入力電力測定	9			
	⑥		S/N測定	7			
		(小計)	52				
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.2.3 放流警報設備：中継局装置・空中線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.2.3 放流警報設備：中継局装置・空中線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価 配分点 A	診断結果			備考
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	
6 機能 維持	1)アンテナ	①	塗装剥離、発錆、腐食	5		10	
	2)接続部	①	変色	5			
	3)配線	①	配線・配線接続部の腐食及び粉塵付着	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験	①		定在波比測定値(注2)	9		20	
			(小計)	9			
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断の まとめ	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 定在波比測定値は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.1 放流警報設備：警報局装置・警報装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.1 放流警報設備：警報局装置・警報装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価 配分点 A	診断結果			備考
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	
6 機能 維持	1)筐体 (架台含む)	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10		
		② 歪み	5				
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3)表示・ 操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
		(小計)	30	0			
7 性能 試験	1)システム の確認	① 各部の電圧のトレンド確認(規定値以内) (注2)	9		20		1項目でも9点 の場合、D欄は 20点とする。
		② 受信レベルのトレンド確認(注2)	9				
		③ 送信レベルのトレンド確認(注2)	9				
	2)通話	① 通話機能	7				
		(小計)	34	0			
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断の まとめ	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.2 放流警報設備：警報局装置・直流電源装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		診断実施者

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1 &lt; 8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8 ≤ K1 &lt; 12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12 ≤ K1 &lt; 15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15 ≤ K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1 < 8	0	8 ≤ K1 < 12	2	12 ≤ K1 < 15	4	15 ≤ K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1 < 8	0															
8 ≤ K1 < 12	2															
12 ≤ K1 < 15	4															
15 ≤ K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異音の発生	5		10											
	②	異臭の発生	5													
		(小計)	10	0												

付表2.3.2 放流警報設備：警報局装置・直流電源装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)収納筐体	① 塗装剥離、発錆	5		10		
		② 歪み	5				
	2)外部端子部	① 変色	5				
		3)主回路部	① 配線・配線接続部の腐食、発錆及び塵埃付着	5			
	② 主素子、アブゾーパーの変色、腐食、発錆		5				
	③ 開閉器の操作、トリップ		5				
	④ コネクターの勘合、緩み		5				
	4)制御基板部	① 配線・配線接続部の腐食	5				
		② 制御基板部品の亀裂、破損、変色、変形	5				
		③ コネクターの勘合、緩み	5				
5)補助リレー、電圧継電器	① 接点、ケースの変色	5					
		(小計)	55				
7. 性能試験	①	出力電圧・電流の安定性確認(注記2) (直流出力電圧値・出力電流値の変化)		9	20		1項目でも9点の場合、D欄は20点とする。
		②	絶縁抵抗測定 (単体) (相対湿度80%以下)	電源入力回路と大地間(500Vメガー使用) 5MΩ以上			
			(小計)	18			
換算評価点合計			(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。



付表2.3.3 放流警報設備:警報局装置・集音マイク 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.3 放流警報設備:警報局装置・集音マイク 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)筐体	①	塗装剥離、発錆、腐食	5		10	
		②	歪み	5			
	2)端子部	①	配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5			
		②	各基板の変色、腐食、粉塵付着	5			
	3)集音部	①	ボイスコイルの湿潤、発錆、腐食	5			
		②	ボイスコイルの亀裂、破損、変形	5			
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	①	インピーダンス確認	9		20		
		(小計)	9				
		換算評価点合計	(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.4 放流警報設備：警報局装置・サイレン 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
		経過年数 (K1)	評価点													
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
(小計)	5	0														
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a. 塩害</td> </tr> <tr> <td>b. 腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c. 粉塵付着</td> </tr> </table>	a. 塩害	b. 腐食性ガス	c. 粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。							
		a. 塩害														
b. 腐食性ガス																
c. 粉塵付着																
(小計)	3	0														
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
	(小計)		17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
	(小計)		9	0												
5. 稼働状況	①	異音の発生	5		10											
	②	異臭の発生	5													
	(小計)		10	0												

付表2.3.4 放流警報設備：警報局装置・サイレン 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考	
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)		
6 機能維持	1) 筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10			
		② 歪み	5					
	2) 端子部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5					
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5					
	3) サイレン部	①		5				
		②		5				
		(小計)	30	0				
7. 性能試験	① (項目無し)				20			
		(小計)	0					
		換算評価点合計		(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)							
	その他							

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.5 放流警報設備:警報局装置・サイレン制御盤 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.5 放流警報設備:警報局装置・サイレン制御盤 機能維持診断表(2/2)

設置場所					形 式	
設備名称					定 格	
用 途					仕 様	
製造者名						
製造年月						
製造番号						
	診断日	天 候	温 度	湿 度		
	明治33年1月0日	0	0	0		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分 点 A	診 断 結 果			備 考
				評価 点 B	重み 付け C	換算 評価点 D (B/A)	
6 機 能 維 持	1)筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10		
		② 歪み	5				
	2)制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3)表示・ 操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	① (項目無し)		9		20		
		(小計)	9				
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診 断 の ま と め	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧, 送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.6 放流警報設備：警報局装置・スピーカ 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1 &lt; 8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8 ≤ K1 &lt; 12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12 ≤ K1 &lt; 15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15 ≤ K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1 < 8	0	8 ≤ K1 < 12	2	12 ≤ K1 < 15	4	15 ≤ K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1 < 8	0															
8 ≤ K1 < 12	2															
12 ≤ K1 < 15	4															
15 ≤ K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.6 放流警報設備：警報局装置・スピーカ 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点 A	診断結果			備考
				評価点 B	重み付け C	換算評価点 D (B/A)	
6 機能維持	1) 筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5	10			
		② 歪み	5				
	2) 端子部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3) 拡声部	① ボイスコイルの湿潤、発錆、腐食	5				
		② ボイスコイルの亀裂、破損、変形	5				
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	① インピーダンス確認		9	20			
		(小計)	9				
		換算評価点合計	(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。



付表2.3.7 放流警報設備:警報局装置・回転灯 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異音の発生	5		10											
	②	異臭の発生	5													
		(小計)	10	0												

付表2.3.7 放流警報設備:警報局装置・回転灯 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5		10		
		② 歪み	5				
	2)端子部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3)点灯部	① 点灯状態	5				
		② 回転状態	5				
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	① (項目無し)				20		
			(小計)	0			
			換算評価点合計 (100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.8 放流警報設備：警報局装置・回転灯制御盤 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1 &lt; 8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8 ≤ K1 &lt; 12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12 ≤ K1 &lt; 15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15 ≤ K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1 < 8	0	8 ≤ K1 < 12	2	12 ≤ K1 < 15	4	15 ≤ K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1 < 8	0															
8 ≤ K1 < 12	2															
12 ≤ K1 < 15	4															
15 ≤ K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.8 放流警報設備：警報局装置・回転灯制御盤 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A)	
6 機能維持	1) 筐体	① 塗装剥離、発錆、腐食	5	10			
		② 歪み	5				
	2) 制御部	① 配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着	5				
		② 各基板の変色、腐食、粉塵付着	5				
	3) 表示・操作部	① 表示の輝度低下・視認性悪化	5				
		② 操作性の悪化(スイッチ等)	5				
		(小計)	30	0			
7. 性能試験	① (項目無し)		9	20			
		(小計)	9				
		換算評価点合計	(100点換算評価)				
診断のまとめ	点検時の特記事項(注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.9 放流警報設備：警報局装置・無線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		診断実施者

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1 &lt; 8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8 ≤ K1 &lt; 12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12 ≤ K1 &lt; 15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15 ≤ K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1 < 8	0	8 ≤ K1 < 12	2	12 ≤ K1 < 15	4	15 ≤ K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1 < 8	0															
8 ≤ K1 < 12	2															
12 ≤ K1 < 15	4															
15 ≤ K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.9 放流警報設備：警報局装置・無線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価配分点A	診断結果			備考
				評価点B	重み付けC	換算評価点D (B/A×C)	
6 機能維持	1)外部箱	①	塗装剥離、発錆、腐食	5	10		
	2)端子部	①	変色、腐食、粉塵付着	5			
	3)回路部	①	変色、腐食、粉塵付着	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験		①	送信出力測定	9	20		1項目でも9点の場合、D欄は20点とする。
		②	送信周波数測定	9			
		③	最大周波数偏移測定	9			
		④	スプリアス発射強度測定	9			
		⑤	受信入力電力測定	9			
		⑥	S/N測定	7			
		(小計)	52				
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断のまとめ	点検時の特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 各部の電圧、送信レベル及び受信レベルのトレンド確認は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。

付表2.3.10 放流警報設備:警報局装置・空中線装置 機能維持診断表(1/2)

設置場所		形 式	
設備名称		定 格	
用 途		仕 様	
製造者名			
製造年月			
製造番号			
	診断日		

項 目	No.	診 断 項 目	評価 配分点 A	診 断 結 果												
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	備考									
1. 経過年数	①	<table border="1"> <tr> <th>経過年数 (K1)</th> <th>評価点</th> </tr> <tr> <td>K1&lt;8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8≤K1&lt;12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>12≤K1&lt;15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>15≤K1</td> <td>5</td> </tr> </table>	経過年数 (K1)	評価点	K1<8	0	8≤K1<12	2	12≤K1<15	4	15≤K1	5	5		10	
	経過年数 (K1)	評価点														
K1<8	0															
8≤K1<12	2															
12≤K1<15	4															
15≤K1	5															
		(小計)	5	0												
2. 環境条件	①	<table border="1"> <tr> <td>a.</td> <td>塩害</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>腐食性ガス</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>粉塵付着</td> </tr> </table>	a.	塩害	b.	腐食性ガス	c.	粉塵付着	3		5	いずれか1項目でも3点に該当する場合、評価点は3点とし、D欄は5点とする。				
	a.	塩害														
b.	腐食性ガス															
c.	粉塵付着															
		(小計)	3	0												
3. 保全記録	①	点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5		20											
	②	故障・修理履歴(過去5年間)	5													
	③	故障発生の頻度(過去1年間)	7													
		(小計)	17	0												
4. 製造中止部品	①	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9		25											
		(小計)	9	0												
5. 稼働状況	①	異臭の発生	5		10											
		(小計)	5	0												

付表2.3.10 放流警報設備:警報局装置・空中線装置 機能維持診断表(2/2)

項目	No.	診断項目	評価 配分点 A	診断結果			備考
				評価 点 B	重み付 けC	換算 評価点 D (B/A×C)	
6 機能 維持	1)アンテナ	①	塗装剥離、発錆、腐食	5		10	
	2)接続部	①	変色	5			
	3)配線	①	配線・配線接続部の腐食及び粉塵付着	5			
			(小計)	15			
7. 性能試験	①	定在波比測定値(注2)	9		20		
		(小計)	9				
			換算評価点合計	(100点換算評価)			
診断の まとめ	点検時の 特記事項 (注3)						
	その他						

(注1) 評価項目に該当しない項目がある場合、評価点Bの小計はそれを除いた評価点とする。

(注2) 定在波比測定値は、直近2年間の点検データによる。

(注3) 点検時に該当部位の劣化に関わる特記事項がある場合は内容を記入する。



付表3.1.1 放流警報設備・制御監視局装置・制御監視装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 空調設備の有無	3	空調設備有り	/	/	空調設備なし	/	/	/	/	/	/
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃	/	/	塵埃付着多い	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去 1年間	/	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/
4	製造中止部品 製造中止部品・代替品・保守 部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有 り、代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有 り、代替品なし、た だし保守部品在庫 3年分以上あり	/	製造中止部品有 り、代替品なし、保 守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	
6	機能維持 1)筐体 (梁台含む)	①塗装剥離、発 錆、腐食	5	塗装剥離、錆、腐 食なし	/	塗装剥離、錆、腐 食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐 食が全体的にあり	/	/	/	/	
		②歪み	5	歪みなし	/	/	歪みあり	/	/	/	/	
	2)制御部	①配線・配線接続 部の変色、腐食	5	変色、腐食なし	/	変色、腐食が部分 的にあり	変色、腐食が全体的 にあり	/	/	/	/	
		②各基板の変 色、腐食	5	変色、腐食、粉塵 付着なし	/	変色、腐食、粉塵 付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵 付着が全体的にあり	/	/	/	/	
	3)表示 操作部	①表示の輝度低 下・視認性悪化	5	輝度低下・視認性 悪化なし	/	輝度低下・視認性 悪化が部分的にあり	輝度低下・視認性 悪化が全体的にあり	/	/	/	/	
		②操作性の悪 化(スイッチ等)	5	操作性悪化なし	/	操作性悪化が部分 的にあり	操作性悪化が全体的 にあり	/	/	/	/	
7	性能試験 1)システム の確認	1)各部の電圧確 認 (注2)	9	判定基準内であ り、測定値のトレ ンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内である が、測定値のトレ ンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため 調整を実施し復 帰(注3)	規定値の範囲外で ある(注3)	/	/	
		①受信レベルの 確認(注2)	9	判定基準内であ り、測定値のトレ ンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内である が、測定値のトレ ンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため 調整を実施し復 帰(注3)	規定値の範囲外で ある(注3)	/	/	
		②送信レベルの 確認(注2)	9	判定基準内であ り、測定値のトレ ンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内である が、測定値のトレ ンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため 調整を実施し復 帰(注3)	規定値の範囲外で ある(注3)	/	/	
	2)通話機能	7	異常なし	/	雑音、音量低下等 により聞き取り難 い	/	/	全く聞き取れない	/	/		

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.1.2 放流警報設備:制御監視局装置・操作卓 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点																	
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9								
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い								
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満		12年以上 15年未満	15年以上												
2	環境条件 a. 空調設備の有無	3	空調設備有り			空調設備なし														
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃			塵埃付着多い														
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)			点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり(3回以上/過去5年間)												
	②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)			故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)												
	③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去1年間			1回故障発生/過去1年間						2回以上故障発生/過去1年間								
4	製造中止部品 製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、代替品有り								製造中止部品有り、代替品なし、ただし保守部品在庫3年分以上あり					製造中止部品有り、代替品なし、保守部品在庫3年分未満			
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし								焼損しているような臭気あり									
6	機能維持 1)筐体 (梁台含む)	①塗装剥離、発錆、腐食	5	塗装剥離、錆、腐食なし			塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり				塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり									
		②歪み	5	歪みなし							歪みあり									
	2)制御部	①配線・配線接続部の変色、腐食	5	変色、腐食なし			変色、腐食が部分的にあり				変色、腐食が全体的にあり									
		②各基板の変色、腐食	5	変色、腐食、粉塵付着なし			変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり				変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり									
	3)表示・操作部	①表示の輝度低下・視認性悪化	5	輝度低下・視認性悪化なし			輝度低下・視認性悪化が部分的にあり				輝度低下・視認性悪化が全体的にあり									
		②操作性の悪化(スイッチ等)	5	操作性悪化なし			操作性悪化が部分的にあり				操作性悪化が全体的にあり									
7	性能試験	①各部の電圧確認(注2)	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向にない							規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある			規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)			規定値の範囲外である(注3)			
		②通話機能及び放送のモニタ	7	異常なし			雑音音量低下等により聞き取り難い						全く聞き取れない							
		③放送機能:音量	9	異常なし								規定値以内であるが、放送音量に低下(又は増加)傾向あり			調整しても規定の音量が出力されない調整を実施し復帰(注3)			規定値の範囲外である(注3)		
		④放送機能:音質	9	明瞭である。								軽微な雑音・音質低下がある						雑音・音質低下等があり聞き取り難い		

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.1.3 放流警報設備:制御監視局装置・ディスプレイ卓 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	5年未満	/	/	5年以上 8年未満	/	/	8年以上	/	/	/
2	環境条件 a. 空調設備の有無	3	空調設備有り	/	/	空調設備なし	/	/	/	/	/	/
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃	/	/	塵埃付着多い	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去1年間	/	/	1回故障発生/過去1年間	/	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/
4	製造中止部品 製造中止部品・代替品・保守 部品の有無(処理部)	9	処理部(サーバ)のPCの製造・販売、 保守サービスが行われている	処理部(サーバ)のPCの製造・販売が 中止されているが、 代替品あり、保守サービスは継続	/	/	/	/	処理部(サーバ)のPCの製造・販売中止、 代替品なし、但し、 保守サービスは継続(今後3年間以上の 継続的保守・修理が可能)	処理部(サーバ)のPCの製造・販売中止、 代替品なし、保守サービスも中止、 または、3年以内に保守中止が 予定されている	/	/
5	OSのサポート状況 ①処理部(サーバ)のOSの サポート状況	7	処理部(サーバ)のOSの製造・販売、 サポートが行われている	/	/	/	処理部(サーバ)のOSのサポート終了が 予定されている	/	処理部(サーバ)のOSのサポートが終了している	/	/	/
6	機能維持 ①制御部(サーバ本体)の 塵埃付着	5	塵埃付着なし	/	/	塵埃付着が部分的 にあり	/	塵埃付着が全体的 にあり	/	/	/	/
	②表示部(ディスプレイ)の 表示状態	5	表示の色ムラや焼き 付きが見られない	/	/	/	/	表示の色ムラや焼き 付きがある	/	/	/	/
	③操作部(キーボード・マウス 等)の操作性	3	異常なし	/	/	キーの文字が消えかけているまたは、 文字入力しづらいキーやカーソル移動が しづらい場合がある。	/	/	/	/	/	/
7	性能試験 ①表示制御動作確認	5	正常に表示制御でき、動作低下も見られず安定している。	/	/	/	/	操作画面の速度が低下するなど動作速度の低下が見られる。	/	ブリーズするなど動作が不安定になるときがある。	/	/
				/	/	/	/	/	/	/	/	/

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

付表3.1.4 放流警報設備:制御監視局装置・通話操作器 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 空調設備の有無	3	空調設備有り	/	/	空調設備なし	/	/	/	/	/	/
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃	/	/	塵埃付着多い	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去1年間	/	/	1回故障発生/過去1年間	/	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/
4	製造中止部品 製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年分以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	
6	1)筐体	①塗装剥離、発錆、腐食	5	塗装剥離、錆、腐食なし	/	/	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	/	塗装剥離、錆、腐食の発生が全体的にあり	/	/	/
		②歪み	5	歪みなし	/	/	/	/	歪みあり	/	/	/
	2)制御部	①配線・配線接続部の変色、腐食	5	変色、腐食なし	/	/	変色、腐食が部分的にあり	/	変色、腐食が全体的にあり	/	/	/
		②各基板の変色、腐食	5	変色、腐食、粉塵付着なし	/	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	/	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/
	3)表示・操作部	①表示の輝度低下・視認性悪化	5	輝度低下・視認性悪化なし	/	/	輝度低下・視認性悪化が部分的にあり	/	輝度低下・視認性悪化あり	/	/	/
		②操作性の悪化(スイッチ等)	5	操作性悪化なし	/	/	操作性悪化が部分的にあり	/	操作性悪化が全体的にあり	/	/	/
7	性能試験	①各部の電圧確認(注2)	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向にない	/	/	/	/	規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	/	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)
		②通話機能及び放送のモニタ	7	異常なし	/	/	雑音音量低下等により聞き取り難い	/	/	全く聞き取れない	/	/
		③放送機能:音量	9	異常なし	/	/	/	/	規定値以内であるが、放送音量に低下(又は増加)傾向あり	/	調整しても規定の音量が出力されない調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)
		④放送機能:音質	9	明瞭である。	/	/	/	/	軽微な雑音音質低下がある	/	/	雑音音質低下等があり聞き取り難い

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.1.5 放流警報設備:制御監視局装置・プリンタ 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 空調設備の有無	3	空調設備有り	/	/	空調設備なし	/	/	/	/	/	/
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃	/	/	塵埃付着多い	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
	③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去 1年間	/	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/
4	製造中止部品 製造中止部品・代替品・保 守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有 り、代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有 り、代替品なし、た だし保守部品在庫 3年分以上あり	/	製造中止部品有 り、代替品なし、保 守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①過熱臭などの異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	
6	機能維持 ①文字かすれ	2	かすれ無し	/	かすれ有り	/	/	/	/	/	/	
	②紙送り	2	詰まらない	/	詰まる	/	/	/	/	/	/	
	③通信	3	印字命令を受信す る	/	/	印字命令を受信で きない	/	/	/	/	/	
7	性能試験 記載内容無し		/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	
7	性能試験 ①各部の電圧確認(注2)	9	判定基準内であ り、測定値のトレ ンドも変化傾向に ない	/	/	/	/	規定値以内である が、測定値のトレ ンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のた め調整を実施し復 帰(注3)	/	規定値の範囲外で ある(注3)	
	②通話機能及び放送のモニ タ	7	異常なし	/	/	雑音 音量低下等 により聞き取り難 い	/	/	全く聞き取れない	/	/	
	③放送機能:音量	9	異常なし	/	/	/	/	規定値以内である が、放送音量に低 下(又は増加)傾向 あり	調整しても規定の 音量が出力されな い調整を実施し復 帰	/	規定値の範囲外で ある(注3)	
	④放送機能:音質	9	明瞭である。	/	/	/	/	軽微な雑音、音質低 下がある	/	/	雑音、音質低下等 があり聞き取り難 い	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
(注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
(注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.1.6 放電警報設備・制御監視局装置・無線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満			12年以上 15年未満	15年以上			
2	a. 空調設備の有無	3	空調設備有り			空調設備なし						
	b. 塵埃付着	3	軽微な塵埃			塵埃付着多い						
3	①点検時の再調整箇所の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)			点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)				
	②故障・修理履歴(過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)			故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)				
	③故障発生頻度(過去1年間)	7	故障発生なし/過去1年間			1回故障発生/過去1年間				2回以上故障発生/過去1年間		
4	製造中止部品・代用品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、代用品有り						製造中止部品有り、代用品なし、ただし保守部品在庫3年以上あり	製造中止部品有り、代用品なし、保守部品在庫3年分未満	
5	稼働状況 ①過熱臭などの異臭の発生	7	異臭なし							焼損しているような臭気あり		
6	1)外箱部 ①塗装剥離、発錆、腐食	5	塗装剥離、発錆、腐食なし			塗装剥離、発錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、発錆、腐食が全体的にあり					
	2)端子部 ①配線・配線接続部の変色、腐食	5	変色、腐食なし			変色、腐食が部分的にあり	変色、腐食が全体的にあり					
	3)回路部 ②各基板の変色、腐食	5	変色、腐食、粉塵付着なし			変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり					
7	①送信出力測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)	
	②送信周波数測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)	
	③最大周波数偏移測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)	
	④スプリアス発射強度測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)	
	⑤受信入力電力測定	9	メーカー規格(試験成績書参照)内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					メーカー規格(試験成績書参照)内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		メーカー規格(試験成績書参照)外のため調整を実施し復帰(注3)	メーカー規格(試験成績書参照)の範囲外である(注3)	
	⑥S/N測定	7	前回確認時と変化無し					前回確認時からやや低下		前回確認時から大幅に低下		

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.1.7 放流警報設備:制御監視局装置・空中線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の 履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (3回以上 /過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴 有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴 有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴 あり (3回以上/過去5 年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去 1年間	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/	/
4	製造中止部品・代替品・保守 部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、た だし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保 守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	
6	機能維持 1)アンテナ ①塗装剥離、発 錆、腐食 2)接続部 ①変色 3)配線 ①配線・配線接続 部の腐食及び粉 塵付着	5	塗装剥離、錆、腐 食なし	/	塗装剥離、錆、腐 食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐 食が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	変色なし	/	変色が部分的にあり	変色が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	腐食、粉塵付着なし	/	腐食、粉塵付着が 部分的にあり	腐食、粉塵付着が 全体的にあり	/	/	/	/	/	
7	性能試験 ①定在波比測定	9	前回と変化なし	/	/	/	前回より定在波比 が変化しているが 無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以下	/	/	/	無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以上	
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

付表3.2.1 放流警報設備・中継局装置・中継装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去1年間	/	1回故障発生/過去1年間	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/	/	/
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	焼損しているような 異臭あり	/	/	/	
6	1)筐体 (架台含む)	5	①塗装剥離、発錆、腐食	塗装剥離、錆、腐食なし	/	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり	/	/	/	/	
		5	②歪み	歪みなし	/	/	歪みあり	/	/	/	/	
	2)制御部	5	①配線・配線接続部の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	
		5	②各基板の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	
	3)表示・操作部	5	①表示の輝度低下・ 視認性悪化	輝度低下・視認性悪化なし	/	輝度低下・視認性悪化が部分的にあり	輝度低下・視認性悪化が全体的にあり	/	/	/	/	
		5	②操作性の悪化 (スイッチ等)	操作性悪化なし	/	操作性悪化が部分的にあり	操作性悪化が全体的にあり	/	/	/	/	
7	1)システムの確認	9	1)各部の電圧確認 (注2)	判定基準内であり、 測定値のトレンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内であるが、 測定値のトレンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を 実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	①受信レベルの確認 (注2)	判定基準内であり、 測定値のトレンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内であるが、 測定値のトレンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を 実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	②送信レベルの確認 (注2)	判定基準内であり、 測定値のトレンドも変化傾向に ない	/	/	規定値以内であるが、 測定値のトレンドが規定範囲から 外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を 実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
	7	2)通話機能	異常なし	/	雑音・音量低下等により聞き取り 難い	/	全く聞き取れない	/	/			

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

(注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。

(注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。



付表3.2.2 放流警報設備・中継局装置・無線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴あり、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去1年間	/	1回故障発生/過去1年間	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/	/	/
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	/	焼損しているような臭気あり	/	/	
6	機能維持 1)外箱部 2)端子部 3)回路部	5	①塗装剥離、発錆、腐食	塗装剥離、錆、腐食なし	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	①変色、腐食、粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	①変色、腐食、粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	
7	性能試験(注4) ①送信出力測定 ②送信周波数測定 ③最大周波数偏移測定 ④スプリアス放射強度測定 ⑤受信入力電力測定 ⑥S/N測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない	/	/	/	規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない	/	/	/	規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない	/	/	/	規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない	/	/	/	規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	/	規定値の範囲外である(注3)		
		9	メーカー規格(試験成績書参照)内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない	/	/	/	メーカー規格(試験成績書参照)内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	メーカー規格(試験成績書参照)外のため調整を実施し復帰(注3)	/	メーカー規格(試験成績書参照)の範囲外である(注3)		
		7	前回確認時と変化無し	/	/	/	前回確認時からやや低下	前回確認時から大幅に低下	/	/		

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.2.3 放流警報設備:中継局装置・空中線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の 履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (3回以上 /過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴 有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴 有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴 あり (3回以上/過去5 年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去 1年間	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/	/
4	製造中止部品・代替品・保守 部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし 保守部品在庫3年分 以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守 部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	
6	機能維持 1)アンテナ ①塗装剥離、発 錆、腐食 2)接続部 ①変色 3)配線 ①配線・配線接続 部の腐食及び粉 塵付着	5	塗装剥離、錆、腐 食なし	/	塗装剥離、錆、腐 食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐 食が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	変色なし	/	変色が部分的にあり	変色が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	腐食、粉塵付着なし	/	腐食、粉塵付着が 部分的にあり	腐食、粉塵付着が 全体的にあり	/	/	/	/	/	
7	性能試験 ①定在波比測定	9	前回と変化なし	/	/	/	前回より定在波比 が変化しているが 無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以下	/	/	/	無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以上	
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

付表3.3.1 放流警報設備・警報局装置・警報装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満		12年以上 15年未満	15年以上				
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)		海岸地帯 (注1)							
		3	標準使用の状態		機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)							
		3	軽微の粉塵		粉塵付着多い							
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)		点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)		故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		7	故障発生なし/過去1年間		1回故障発生/過去1年間		2回以上故障発生/過去1年間					
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り					製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり		製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし					焼損しているような 臭気あり				
6	1)筐体 (架台含む)	5	①塗装剥離、発錆、腐食	塗装剥離、錆、腐食なし		塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり		塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり				
		5	②歪み	歪みなし				歪みあり				
	2)制御部	5	①配線・配線接続部の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし		変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり		変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり				
		5	②各基板の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし		変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり		変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり				
	3)表示・操作部	5	①表示の輝度低下・視認性悪化	輝度低下・視認性悪化なし		輝度低下・視認性悪化が部分的にあり		輝度低下・視認性悪化が全体的にあり				
		5	②操作性の悪化 (スイッチ等)	操作性悪化なし		操作性悪化が部分的にあり		操作性悪化が全体的にあり				
7	1)システムの確認	9	1)各部の電圧確認 (注2)	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)		規定値の範囲外である(注3)
		9	①受信レベルの確認(注2)	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)		規定値の範囲外である(注3)
		9	②送信レベルの確認(注2)	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)		規定値の範囲外である(注3)
	7	2)通話機能	異常なし		雑音・音量低下等により聞き取り難い				全く聞き取れない			

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

(注2)各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。

(注3)測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.2 放流警報設備・警報局装置・直流電源装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数	①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/
2	環境条件	a. 塩害	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/
		b. 腐食性ガス	3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/
		c. 粉塵付着	3	軽微な粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/
3	保全記録	①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の 履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
		②故障・修理履歴 (過去5年間)	5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴 有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴 有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴 あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/
		③故障発生頻度 (過去1年間)	7	故障発生なし/過去 1年間	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/
4	製造中止部品	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況	①異音の発生	3	異音なし	/	/	/	ビビリ音、うなり音 などの発生	/	/	/	/
		②異臭の発生	3	異臭なし	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	/
6	機能維持	1) 収納筐体	①塗装剥離、発錆、腐食	5	塗装剥離、錆、腐食なし	/	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	/	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり	/	/	/
			②歪み	5	歪みなし	/	/	/	歪みあり	/	/	/
		2) 外部端子部	①変色	5	変色無し	/	変色が部分的にあり	/	変色が全体的にあり	/	/	/
			3) 主回路	①配線・配線接続部の腐食、発錆及び塵埃付着	5	変色、腐食なし	/	変色、腐食が部分的にあり	/	変色、腐食が全体的にあり	/	/
		②主素子、アブゾーバーの変色、腐食、発錆		5	変色、腐食、錆なし	/	変色、腐食、錆が部分的にあり	/	変色、腐食が全体的にあり	/	/	/
		③開閉器の操作、トリップ		5	開閉、リセットが出来る	/	開閉、リセットは出来るが操作がかた	/	開閉、リセットが出来ない	/	/	/
		④コネクタの適合、緩み		5	コネクタの抜き挿しが出来る	/	コネクタの抜き挿しがかた	/	コネクタの抜き挿しが出来ない	/	/	/
		4) 制御基板部	①配線・配線接続部の腐食	5	腐食なし	/	腐食が部分的にあり	/	腐食が全体的にあり	/	/	/
			②制御基板部品の亀裂、破損、変色、変形	5	亀裂、破損、変色、変形なし	/	亀裂、破損、変色、変形が部分的にあり	/	亀裂、破損、変色、変形が全体的にあり	/	/	/
			③コネクタの適合、緩み	5	コネクタの抜き挿しが出来る	/	コネクタの抜き挿しがかた	/	コネクタの抜き挿しが出来ない	/	/	/
5) 補助リレー、電圧継電器	①接点、ケースの変色	5	変色なし	/	変色が部分的にあり	/	変色が全体的にあり	/	/	/		
	7	性能試験	1) 出力特性	出力電圧・電流の安定性(注4)	9	異常なし	/	/	出力電圧設定値が変化、電圧・電流がハンチングし調整している	/	/	出力電圧の補正が出来ない、ハンチングが止まらない
2) 絶縁抵抗測定			主回路と対地間	9	100MΩ以上	/	/	5MΩを超え100MΩ未満	/	/	5MΩ以下	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.3 放流警報設備:警報局装置・集音マイク 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満			12年以上 15年未満	15年以上			
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)			海岸地帯 (注1)						
		3	標準使用の状態			機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)						
		3	軽微の粉塵			粉塵付着多い						
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)			点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)				
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)			故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)				
		7	故障発生なし/過去1年間			1回故障発生/過去1年間			2回以上故障発生/過去1年間			
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り						製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし					焼損しているような 臭気あり				
6	1)筐体	5	塗装剥離、発錆、腐食			塗装剥離、錆、腐食が部分的あり			塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり			
		5	歪み					歪みあり				
	2)端子部	5	①配線・配線接続部の変色、腐食、粉塵付着			変色、腐食、粉塵付着が部分的あり			変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり			
		5	②各基板の変色、腐食、粉塵付着			変色、腐食、粉塵付着が部分的あり			変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり			
	3)集音部	5	①ボイスコイルの湿潤、発錆、腐食			湿潤、腐食、発錆が部分的あり			湿潤、腐食、発錆が全体的にあり			
		5	②ボイスコイルの亀裂、破損、変形			亀裂、破損、変形が部分的あり			亀裂、破損、変形が全体的にあり			
7	性能試験 ①インピーダンス確認		判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.4 放流警報設備：警報局装置・サイレン 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去1年間	/	1回故障発生/過去1年間	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/	/	/
4	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異音の発生 ②異臭の発生	5	異音なし	/	/	/	ビビリ音、うなり音 などの発生有り	/	/	/	/	/
		5	異臭なし	/	/	/	焼損しているような 異臭あり	/	/	/	/	/
6	1) 筐体	5	塗装剥離、発錆、腐食なし	/	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
		5	歪みなし	/	/	歪みあり	/	/	/	/	/	/
	2) 端子部	5	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
		5	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
	3) サイレン部	5	音圧は正常である	/	/	音圧不足でいつも異常になる	/	/	/	/	/	/
		5	回転する	/	異音を発生しながら回転する	回転しない	/	/	/	/	/	/
7	性能試験 (項目無し)		/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
(注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
(注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.4 放流警報設備:警報局装置・サイレン制御盤 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満		12年以上 15年未満	15年以上				
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)		海岸地帯 (注1)							
		3	標準使用の状態		機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)							
		3	軽微の粉塵		粉塵付着多い							
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)		点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)		故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		7	故障発生なし/過去1年間		1回故障発生/過去1年間			2回以上故障発生/過去1年間				
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り					製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり		製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし				焼損しているような 臭気あり					
6	1)筐体	5	塗装剥離、発錆、腐食		塗装剥離、錆、腐食なし	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり					
		5	歪み		歪みなし		歪みあり					
	2)制御部	5	①配線・配線接続部の変色、腐食、 粉塵付着		変色、腐食、粉塵付着なし	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり					
		5	②各基板の変色、腐食、 粉塵付着		変色、腐食、粉塵付着なし	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり					
	3)表示・操作部	5	①表示の輝度低下・視認性 悪化		輝度低下・視認性悪化なし	輝度低下・視認性悪化が部分的にあり	輝度低下・視認性悪化が全体的にあり					
		5	②操作性の悪化 (スイッチ等)		操作性悪化なし	操作性悪化が部分的にあり	操作性悪化が全体的にあり					
7	性能試験 (項目無し)											

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2)各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
 (注3)測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.6 放流警報設備:警報局装置・スピーカ 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満		12年以上 15年未満	15年以上				
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)		海岸地帯 (注1)							
		3	標準使用の状態		機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)							
		3	軽微の粉塵		粉塵付着多い							
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)		点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)		故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		7	故障発生なし/過去1年間		1回故障発生/過去1年間			2回以上故障発生/過去1年間				
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り					製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり		製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし					焼損しているような 臭気あり				
6	1)筐体	5	塗装剥離、発錆、腐食		軽微な塗装剥離、 錆、腐食の発生あり		塗装剥離、錆、腐食の発生あり					
		5	歪みなし				歪みあり					
	2)端子部	5	変色、腐食、粉塵付着なし		軽微な過熱変色、 腐食、粉塵付着あり		過熱変色、腐食、 粉塵付着あり					
		5	変色、腐食、粉塵付着なし		軽微な過熱変色、 腐食、粉塵付着あり		過熱変色、腐食、 粉塵付着あり					
	3)集音部	5	異常なし		湿潤、腐食、発錆が 部分的あり		湿潤、腐食、発錆が 全体的にあり					
		5	異常なし		亀裂、破損、変形が 部分的あり		亀裂、破損、変形が 全体的にあり					
7	性能試験 ①インピーダンス確認		判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある		規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)		規定値の範囲外である(注3)	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

(注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。

(注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。



付表3.3.7 放流警報設備:警報局装置・回転灯 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生の頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去1年間	/	1回故障発生/過去1年間	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/	/	/
4	製造中止部品・代替品・保守部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異音の発生 ②異臭の発生	5	異音なし	/	/	/	/	ビビリ音、うなり音 などの発生有り	/	/	/	/
		5	異臭なし	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	/
6	1)筐体	5	塗装剥離、発錆、腐食 の発生なし	/	塗装剥離、錆、腐食 が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食 が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
		5	歪みなし	/	/	歪みあり	/	/	/	/	/	/
	2)端子部	5	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
		5	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/	/
	3)点灯部	5	点灯する	/	/	点灯しない	/	/	/	/	/	/
		5	回転する	/	異音を発生しながら 回転する	回転しない	/	/	/	/	/	/
7	性能試験 (項目無し)		/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるかを診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.8 放流警報設備:警報局装置・回転灯制御盤 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去1年間	/	1回故障発生/過去1年間	/	2回以上故障発生/過去1年間	/	/	/	/	/
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	/	/	/
6	1)筐体	5	①塗装剥離、発錆、腐食	塗装剥離、錆、腐食なし	/	塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり	/	/	/	/	/
		5	②歪み	歪みなし	/	/	歪みあり	/	/	/	/	/
	2)制御部	5	①配線・配線接続部の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/
		5	②各基板の変色、腐食、 粉塵付着	変色、腐食、粉塵付着なし	/	変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり	/	/	/	/	/
	3)表示・操作部	5	①表示の輝度低下・視認性悪化	輝度低下・視認性悪化なし	/	輝度低下・視認性悪化が部分的にあり	輝度低下・視認性悪化が全体的にあり	/	/	/	/	/
		5	②操作性の悪化 (スイッチ等)	操作性悪化なし	/	操作性悪化が部分的にあり	操作性悪化が全体的にあり	/	/	/	/	/
7	性能試験 ①手動釦による回転灯点灯 ②外部(警報装置)からの回転灯点灯 ③外部(警報装置)からの点検	9	正常吹鳴	/	過去に異常あり	頻繁に異常発生	/	/	/	/	吹鳴しない	
		9	正常吹鳴	/	過去に異常あり	頻繁に異常発生	/	/	/	/	吹鳴しない	
		9	正常動作	/	過去に異常あり	頻繁に異常発生	/	/	/	/	動作しない	
7	(項目無し)		/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2)各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3)測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.9 放流警報設備・警報局装置・無線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満		8年以上 12年未満		12年以上 15年未満	15年以上				
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)		海岸地帯 (注1)							
		3	標準使用の状態		機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)							
		3	軽微の粉塵		粉塵付着多い							
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)		点検時の再調整の履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)		故障・修理の履歴あり、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴あり (3回以上/過去5年間)					
		7	故障発生なし/過去1年間		1回故障発生/過去1年間		2回以上故障発生/過去1年間					
4	製造中止部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代替品有り					製造中止部品有り、 代替品なし、ただし保守部品在庫 3年以上あり	製造中止部品有り、 代替品なし、保守部品在庫3年分未満		
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし						焼損しているような 臭気あり			
6	機能維持 1)外箱部 2)端子部 3)回路部	5	①塗装剥離、発錆、腐食なし		塗装剥離、錆、腐食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐食が全体的にあり						
		5	①変色、腐食、粉塵付着なし		変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり						
		5	①変色、腐食、粉塵付着なし		変色、腐食、粉塵付着が部分的にあり	変色、腐食、粉塵付着が全体的にあり						
7	性能試験(注4) ①送信出力測定 ②送信周波数測定 ③最大周波数偏移測定 ④スプリアス放射強度測定 ⑤受信入力電力測定 ⑥S/N測定	9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない					規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)		
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)			
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)			
		9	判定基準内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				規定値以内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	規定値範囲外のため調整を実施し復帰(注3)	規定値の範囲外である(注3)			
		9	メーカー規格(試験成績書参照)内であり、測定値のトレンドも変化傾向がない				メーカー規格(試験成績書参照)内であるが、測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にある	メーカー規格(試験成績書参照)外のため調整を実施し復帰(注3)	メーカー規格(試験成績書参照)の範囲外である(注3)			
		7	前回確認時と変化無し				前回確認時からやや低下	前回確認時から大幅に低下				

(注1) 海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。  
 (注2) 各部の電圧、受信レベル及び送信レベルの確認は、過去2年間の点検データ(測定値)も含めてそのトレンドを確認し、規定値の範囲から外れる傾向にあるか等を診断する。  
 (注3) 測定値のトレンドが規定範囲から外れる傾向にあり、測定値が規定値の範囲外に外れている場合は、評価点9点とする。

付表3.3.10 放流警報設備:警報局装置・空中線装置 機能維持診断評価点基準

No.	診断項目	配分点	評価点									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			劣化なし	軽微な劣化あり、または劣化に影響する要素がある (軽微な劣化の程度により3段階に分類)			劣化あり、または劣化が発生していると推定できる (劣化の程度により3段階に分類)			劣化が著しい、 又は継続的な保守が困難		劣化が非常に著しい、又は保守が困難で、更新・修理を必要とする緊急度が高い
1	経過年数 ①経過年数	5	8年未満	/	8年以上 12年未満	/	12年以上 15年未満	15年以上	/	/	/	/
2	環境条件 a. 塩害 b. 腐食性ガス c. 粉塵付着	3	海岸地帯以外 (注1)	/	海岸地帯 (注1)	/	/	/	/	/	/	/
		3	標準使用の状態	/	機器周辺の腐食性 ガス発生が多い (温泉等による影響)	/	/	/	/	/	/	/
		3	軽微の粉塵	/	粉塵付着多い	/	/	/	/	/	/	/
3	保全記録 ①点検時の再調整箇所 の有無(過去5年間) ②故障・修理履歴 (過去5年間) ③故障発生頻度 (過去1年間)	5	点検時の再調整箇所なし (0回/過去5年間)	/	点検時の再調整の 履歴あり (1回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (2回/過去5年間)	点検時の再調整の 履歴あり (3回以上 /過去5年間)	/	/	/	/	/
		5	故障・修理履歴なし (0回/過去5年間)	/	故障・修理の履歴 有り、 (1回/過去5年間)	故障・修理の履歴 有り、 (2回/過去5年間)	故障・修理の履歴 あり (3回以上/過去5 年間)	/	/	/	/	/
		7	故障発生なし/過去 1年間	/	1回故障発生/過去 1年間	/	/	2回以上故障発生 /過去1年間	/	/	/	/
4	製造中止部品・代用品・保守 部品の有無	9	製造中止部品なし	製造中止部品有り、 代用品有り	/	/	/	/	製造中止部品有り、 代用品なし、た だし保守部品在庫 3年以上あり	/	製造中止部品有り、 代用品なし、保 守部品在庫3年分 未満	
5	稼働状況 ①異臭の発生	7	異臭なし	/	/	/	/	/	焼損しているような 臭気あり	/	/	
6	機能維持 1)アンテナ ①塗装剥離、発 錆、腐食 2)接続部 ①変色 3)配線 ①配線。配線接 続部の腐食及び 粉塵付着	5	塗装剥離、錆、腐 食なし	/	塗装剥離、錆、腐 食が部分的にあり	塗装剥離、錆、腐 食が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	変色なし	/	変色が部分的にあり	変色が全体的にあり	/	/	/	/	/	
		5	腐食、粉塵付着なし	/	腐食、粉塵付着が 部分的にあり	腐食、粉塵付着が 全体的にあり	/	/	/	/	/	
7	性能試験 ①定在波比測定	9	前回と変化なし	/	/	/	前回より定在波比 が変化しているが 無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以下	/	/	/	無線装置、同軸避 雷器、空中線を組 み合わせた総合で 2.0以上	
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

(注1)海岸地帯とは、飛来塩分量0.05mddを超える地域で、太平洋沿岸部では海岸から2km以内を示す。

付表 4.1.1 点検に追加する診断項目一覧表

項目及び診断箇所		診断項目	
制御監視装置 中継装置 警報装置	機能維持	筐体	塗装剥離、発錆、腐食による劣化
			歪み
		制御部	配線・接続部の変色、腐食、粉塵付着
			各基板の変色、腐食、粉塵付着
		表示・操作部	表示の輝度低下・視認性悪化
			操作性の悪化(スイッチ等)
ディスプレイ卓	機能維持	処理部(サーバ)本体	粉塵付着(付着の程度:全体的、部分的)
		表示部(ディスプレイ)	表示状態(色むらや焦げ付きの有無)
		操作部(キーボード、マウス)	操作性(操作性の悪化)

付表5.1.1 放流警報設備：制御監視装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項	
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<p>腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下</p> <p>塗膜の劣化 → 腐食の進行</p> <p>水分の付着 → 腐食の進行</p> <p>汚損物付着 → 腐食の進行</p> <p>防塵・保護能力低下 → 腐食の進行</p> <p>虫の侵入 → 感電</p> <p>盤内への汚損物・水分の侵入 → 感電</p> <p>地絡・短絡</p> <p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p> <p>接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>システム停止</p> <p>断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → システム停止</p> <p>動作不良 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損	
	外箱・扉	非鉄金属			変形・破損		修理	2	変形、破損	
	蝶番・ネジ				合成ゴム・樹脂		弾性低下・変質	修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル						破損	修理	2	破損
	扉パッキン							修理	2	破損
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損	<p>誤差増大 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>特性不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p> <p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>システム停止</p> <p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → システム停止</p> <p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>システム停止</p> <p>腐食の進行 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良	
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況 接続状況	
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況	
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形	
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況	
表示・操作部	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損	<p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良 → システム停止</p> <p>動作不良 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	修理	2	腐食、破損、変形	
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況	
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下		修理	2	動作状況、表示	
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落	
	通話部	受話器 ボタン	連絡		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落	
電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良	<p>動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	修理	2	電圧、リップル 動作状況	
					修理		2	腐食、破損、変形		
							修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.1.2 放流警報設備：操作卓の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<p>腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下                  塗膜の劣化 → 腐食の進行                  水分の付着 → 腐食の進行                  汚損物付着 → 腐食の進行                  防塵・保護能力低下 → 虫の侵入 → 感電 → 地絡・短絡                  盤内への汚損物・水分の侵入 → 感電 → 地絡・短絡                  誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 警報制御不能                  動作不良の進行 → システム停止                  腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能                  接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止                  ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能                  疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能                  接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止                  腐食の進行 → 動作不良 → 表示不能                  誤差増大 → 動作不良 → 操作不能                  特性不良 → 動作不良 → 操作不能                  輝度低下 → 表示不能                  動作不良 → 操作不能                  動作不良 → 操作不能                  動作不良 → 操作不能                  特性不良 → 出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能                  動作不良の進行 → システム停止</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属	各種ボード収容	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ						修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	合成ゴム・樹脂	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	破損
	扉パッキン	合成ゴム・樹脂	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	破損
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況 接続状況
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況
表示・操作部	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損		修理	2	腐食、破損、変形
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下		修理	2	動作状況、表示
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落
	通話部	受話器 ボタン	連絡		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落
放送部	マイク ボタン	放送		動作不良	修理	2	接触不良 破損、脱落		
電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良		修理	2	電圧、リップル 動作状況
					修理		2	腐食、破損、変形	
							修理	2	動作状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.1.3 放流警報設備：ディスプレイ卓の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<p>腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p> <p>塗膜の劣化 水分の付着 汚損物付着 → 盤内への汚損物・水分の侵入 → 虫の侵入 → 感電 → 地絡・短絡</p> <p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p> <p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止</p> <p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止</p> <p>腐食の進行 → 輝度低下 → 表示不能</p> <p>輝度低下 → 表示不能</p> <p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 表示不能</p> <p>特性不良 → 動作不良 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>特性不良 → 出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属	各種ボード収容	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ						修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	合成ゴム・樹脂	環境	破損	修理		2	破損	
扉パッキン	環境	破損	修理	2	破損				
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損	<p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p> <p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止</p> <p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → システム停止</p>	修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況 接続状況
	端子台	銅 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況
表示・操作部	タッチパネル	鋼板 塗装 ネジ LCD	部品固定 表示	環境 経過年	腐食・破損 輝度低下	<p>腐食の進行 → 輝度低下 → 表示不能</p> <p>輝度低下 → 表示不能</p> <p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 表示不能</p> <p>特性不良 → 動作不良 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p>	修理	2	腐食、破損、変形
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路	環境	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況
	キーボード	キーボード	操作	環境	動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落
電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCB UPS	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良	<p>特性不良 → 出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>動作不良の進行 → システム停止</p>	修理	2	電圧、リップル 動作状況
	電源回路	環境	破損	修理	2		腐食、破損、変形		

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存



付表5.1.4 放流警報設備：通話操作器の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱 ネジ								
制御部	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	特性不良 動作不良
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み				
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線				
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良				
	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損				
表示・操作部	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況
	表示灯	LED	表示	経過年	輝度低下				
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良				
	通話部	受話器 ボタン	連絡		動作不良				
	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良				
電源部					出力異常電圧 動作不良 通話不能	修理	2	腐食、破損、変形	
					動作状況				

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.1.5 放流警報設備：プリンタの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項	
収容筐体	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損	
	外箱									
	ネジ									
プリンタ本体	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	特性不良 動作不良	
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み					動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線					腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良					接続状況
	表示灯	LED	表示	経過年	輝度低下					動作状況、表示
	駆動部	モータ	印字		動作不良					接触不良 破損、脱落
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良					接触不良 破損、脱落
	電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年					破損・動作不良 特性不良
						腐食、破損、変形	修理	2	動作状況	
							修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.1.6 放流警報設備：無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
無線装置	受信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	受信回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[受信電圧低下]     A --&gt; C[S/N値低下]     A --&gt; D[受信周波数特性不良]     B --&gt; E[動作不良]     C --&gt; E     D --&gt; E     E --&gt; F[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	送信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	送信回路		誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[送信電圧低下]     A --&gt; C[出力周波数特性不良]     B --&gt; D[動作不良]     C --&gt; D     D --&gt; E[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	同軸線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	接続用	接触不良	<pre> graph LR     A[疲労の進行] --&gt; B[接触不良]     B --&gt; C[動作不良]     C --&gt; D[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付5.1.7 放流警報設備：空中線の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
外箱部	基礎部材	アルミニウム メッキ皮膜 塗料	通信	環境	腐食・破損	<p>強風 → 方向のズレ → 方向のズレ → 警報制御不能</p> <p>飛来物 → 方向のズレ → 方向のズレ → 警報制御不能</p> <p>塗膜の劣化 → 腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p> <p>水分の付着 → 腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p> <p>汚損物付着 → 腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	鋼板	機器収納・固定 防水・防塵 保護	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ	メッキ皮膜 塗料			弾性低下・変質		修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	非鉄金属							
扉パッキン	合成ゴム・樹脂								
接続部	端子台	銅 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み	<p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p>	修理	2	動作状況 接続状況
配線	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線	<p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p>	修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	<p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p>	修理	2	接続状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.2.1 放流警報設備：中継装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項	
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防湿・防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損	
	外箱・扉	非鉄金属			変形・破損		修理	2	変形、破損	
	蝶番・ネジ				合成ゴム・樹脂		弾性低下・変質	修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル						破損	修理	2	破損
	扉パッキン							修理	2	破損
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	破損	
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良	
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況	
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形	
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況	
表示・操作部	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損		修理	2	腐食、破損、変形	
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況	
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下		修理	2	動作状況、表示	
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落	
	通話部	受話器 ボタン	連絡		動作不良		修理	2	接触不良 破損、脱落	
電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良		修理	2	電圧、リップル 動作状況	
					修理		2	腐食、破損、変形		
							修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.2.2 放流警報設備：無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
無線装置	受信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	受信回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[受信電圧低下]     A --&gt; C[S/N値低下]     A --&gt; D[受信周波数特性不良]     B --&gt; E[動作不良]     C --&gt; E     D --&gt; E     E --&gt; F[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	送信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	送信回路		誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[送信電圧低下]     A --&gt; C[出力周波数特性不良]     B --&gt; D[動作不良]     C --&gt; D     D --&gt; E[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	同軸線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	接続用		接触不良	<pre> graph LR     A[疲労の進行] --&gt; B[接触不良]     B --&gt; C[動作不良]     C --&gt; D[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	動作状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.2.3 放流警報設備：空中線の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部 分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
外箱部	基礎部材	アルミニウム メッキ皮膜 塗料	通信	環境	腐食・破損	<p>強風 → 方向のズレ → 警報制御不能            飛来物 → 方向のズレ → 破損 → 警報制御不能            塗膜の劣化 → 腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全            水分の付着 → 腐食の進行            汚損物付着 → 腐食の進行</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	鋼板	機器収納・固定 防水・防塵 保護	環境	変形・破損 弾性低下・変質		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ	メッキ皮膜 塗料					修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル 扉パッキン	非鉄金属 合成ゴム・樹脂							
接続部	端子台	銅 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み	<p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能            接触部の緩み → 接触不良</p>	修理	2	動作状況 接続状況
配線	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線	<p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p>	修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	<p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能            接触部の緩み → 接触不良</p>	修理	2	接続状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.1 放流警報設備：警報装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防湿・防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<p>腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p> <p>塗膜の劣化 → 水分の付着 → 汚損物付着 → 防塵・防湿・保護能力低下 → 虫・小動物等の侵入 → 造巣 → 感電 → 地絡・短絡</p> <p>盤内への汚損物・水分の侵入 → 感電 → 地絡・短絡</p> <p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>腐食の進行 → 断線 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 表示不能</p> <p>輝度低下 → 表示不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>動作不良 → 操作不能</p> <p>特性不良 → 出力異常電圧 → 動作不良 → 警報制御不能</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属	各種ボード収容	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ						修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	合成ゴム・樹脂	弾性低下、変質	修理	2		破損		
	扉パッキン	弾性低下、変質	修理	2	破損				
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損	修理	2	破損	
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良	修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良	
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み	修理	2	動作状況 接続状況	
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線	修理	2	腐食、破損、変形	
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	修理	2	接続状況	
表示・操作部	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損	修理	2	腐食、破損、変形	
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良	修理	2	動作状況	
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下	修理	2	動作状況、表示	
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良	修理	2	接触不良 破損、脱落	
	通話部	受話器 ボタン	連絡		動作不良	修理	2	接触不良 破損、脱落	
電源部	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良	修理	2	電圧、リップル 動作状況	
					修理	2	腐食、破損、変形		
					修理	2	動作状況		

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存



付表5.3.2 放流警報設備：集音マイクの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項					
外箱部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損					
	外箱						端子台	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	ネジ													
端子・配線部	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況					
	配線						各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形	
	配線コネクタ										接続材料	環境	接続不良	
集音部	ボイスコイル	銅	集音	環境 経過年 摩耗	腐食・破損		修理	2	接触不良 破損、脱落					

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.3 放流警報設備：サイレンの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項	
外箱部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<pre>                     graph TD                         A[腐食の進行] --&gt; B[腐食層の剥離・穿孔]                         B --&gt; C[機械的強度低下]                         D[塗膜の劣化] --&gt; E[水分の付着]                         E --&gt; F[汚損物付着]                         F --&gt; G[防塵・保護能力低下]                         G --&gt; H[雨漏り]                         H --&gt; I[据付け機能不全]                         I --&gt; J[虫・小動物等の侵入]                         J --&gt; K[造巣]                         K --&gt; L[感電]                         L --&gt; M[地絡・短絡]  N[誤差増大] --&gt; O[特性不良]                         O --&gt; P[動作不良]                         P --&gt; Q[吹鳴不能]  R[盤内への汚損物・水分の侵入] --&gt; S[動作不良]                         S --&gt; Q  T[腐食の進行] --&gt; U[接触不良]                         U --&gt; V[動作不良]                         V --&gt; Q  W[接触部の緩み] --&gt; U  X[ビニルの変質硬化] --&gt; Y[断線]                         Y --&gt; Q  Z[疲労の進行] --&gt; AA[接触不良]                         AA --&gt; V  AB[接触部の緩み] --&gt; AA  AC[動作不良] --&gt; Q  AD[動作不良] --&gt; AE[余韻防止不能]                         AE --&gt; AF[余韻防止不能]  AG[特性不良] --&gt; P                     </pre>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損	
	制御部	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年		誤差増大 特性不良 動作不良			
端子・配線部	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み			修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線			修理	2	腐食、破損、変形
サイレン部	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良			修理	2	接続状況
	駆動部	モータ	サイレン吹鳴	環境 経過年 摩耗	動作不良			修理	2	動作状況
	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	余韻防止	環境 経過年 摩耗	腐食・破損 動作不良			修理	2	動作状況 接触不良 破損、脱落

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.4 放流警報設備：サイレン制御盤の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属	各種ボード収容	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ						修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	合成ゴム・樹脂	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	破損
	扉パッキン						修理	2	破損
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況
	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損		修理	2	腐食、破損、変形
表示・操作部	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良	修理	2	動作状況	
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下	修理	2	動作状況、表示	
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良	修理	2	接触不良 破損、脱落	
	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良	修理	2	電圧、リップル 動作状況	
電源部						修理	2	腐食、破損、変形	
						修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.5 放流警報設備：スピーカの主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項					
外箱部	基礎部材	銅板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損					
	外箱						端子台	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	ネジ													
端子・配線部	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	腐食、破損、変形					
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形					
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況					
集音部	ボイスコイル	銅	放送	環境 経過年 摩耗	腐食・破損		修理	2	接触不良 破損、脱落					

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.6 放流警報設備：回転灯の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項	
外箱部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損	<p>腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下                  塗膜の劣化 → 雨漏り → 据付け機能不全                  水分の付着 → 汚損物付着 → 虫・小動物等の侵入                  防塵・保護能力低下 → 盤内への汚損物・水分の侵入 → 造巣 → 感電 → 地絡・短絡                  誤差増大 → 特性不良 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  ビニルの変質硬化 → 断線 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  接触部の緩み → 接触不良 → 動作不良 → 回転・点灯不能                  動作不良 → 回転不能                  動作不良 → 回転不能                  特性不良 → 動作不良 → 回転不能</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損	
	ネジ									
制御部	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良					特性不良 動作不良
端子・配線部	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み			修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線			修理	2	腐食、破損、変形
回転部	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良			修理	2	接続状況
	駆動部	モータ	電球回転	環境 経過年 摩耗	動作不良			修理	2	動作状況
回転部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	電球固定	環境 経過年 摩耗	腐食・破損 動作不良			修理	2	動作状況 接触不良 破損、脱落

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.7 放流警報設備：回転灯制御盤の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
筐体部	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属	各種ボード収容	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ						修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	合成ゴム・樹脂	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	破損
	扉パッキン						修理	2	破損
制御部	基板収容フレーム	鋼板 塗装 BUS基板 基板コネクタ	各種ボード収容	環境	破損		修理	2	誤差増大 特性不良 動作不良
	各種ボード	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 基板コネクタ	制御論理回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良		修理	2	動作状況 接続状況
	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み		修理	2	動作状況 接続状況
	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良		修理	2	接続状況
	表示・操作パネル	鋼板 塗装 ネジ	部品固定	環境	腐食・破損		修理	2	腐食、破損、変形
表示・操作部	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良	修理	2	動作状況	
	表示灯	LED LCD	表示	経過年	輝度低下	修理	2	動作状況、表示	
	スイッチ	押しボタンスイッチ デジタルスイッチ	操作		動作不良	修理	2	接触不良 破損、脱落	
	電源回路	電源IC トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 基板 MCCB	定電圧	熱 経過年	破損・動作不良 特性不良	修理	2	電圧、リップル 動作状況	
電源部					出力異常電圧 動作不良	修理	2	腐食、破損、変形	
						修理	2	動作状況	

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.8 放流警報設備：直流電源装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
収納筐体	基礎部材	鋼板 メッキ皮膜 塗料	機器収納・固定 防塵 防音・保護	環境	腐食・破損		非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	非鉄金属			変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ				修理		2	動作状況 接続状況	
	扉ハンドル				修理		2	動作状況	
外部端子部	端子台	銅合金 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み	修理	2	動作状況 接続状況	
主回路	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	修理	2	接続状況	
	主回路	主素子 アプソーバー MCCB	定電圧	環境	特性不良 動作不良	修理	2	動作状況	
制御基板部	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線		修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	修理	2	接続状況	
	制御回路	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 基板コネクタ	論理回路		誤差増大 特性不良 動作不良	修理	2	動作状況	
補助リレー・電圧継電器	補助リレー	銅又は銀合金	各部開閉	環境	接触不良		修理	2	動作状況
	電圧継電器	銀合金	各部開閉	環境	接触不良		修理	2	動作状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存

付表5.3.9 放流警報設備：無線装置の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
無線装置	受信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	受信回路	経過年	誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[受信電圧低下]     A --&gt; C[S/N値低下]     A --&gt; D[受信周波数特性不良]     B --&gt; E[動作不良]     C --&gt; E     D --&gt; E     E --&gt; F[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	送信機	基板 集積回路(LSI・IC) トランジスタ ダイオード コンデンサ 抵抗 LED 同軸コネクタ パネル	送信回路		誤差増大 特性不良 動作不良	<pre> graph LR     A[誤差増大] --&gt; B[送信電圧低下]     A --&gt; C[出力周波数特性不良]     B --&gt; D[動作不良]     C --&gt; D     D --&gt; E[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	特性不良 動作不良
	同軸線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	接続用		接触不良	<pre> graph LR     A[疲労の進行] --&gt; B[接触不良]     B --&gt; C[動作不良]     C --&gt; D[警報制御不能]                     </pre>	修理	2	動作状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存



付表5.3.10 放流警報設備：空中線の主要劣化部位・劣化パターンと診断時の確認事項

部位	部分	使用材料	機能区分	主劣化要因	劣化形態	劣化パターンと障害現象	現実の修復対応	劣化進行速度	設備診断時の確認事項
外箱部	基礎部材	アルミニウム メッキ皮膜 塗料	通信	環境	腐食・破損	<p>強風 → 方向のズレ → 方向のズレ → 警報制御不能</p> <p>飛来物 → 塗膜の劣化 → 腐食の進行 → 腐食層の剥離・穿孔 → 機械的強度低下 → 据付け機能不全</p> <p>水分の付着 → 汚損物付着</p>	非修理	2	塗膜の劣化状況、剥離 変形、破損
	外箱・扉	鋼板	機器収納・固定 防水・防塵 保護	環境	変形・破損		修理	2	変形、破損
	蝶番・ネジ	メッキ皮膜 塗料			弾性低下・変質		修理	2	弾性低下、変質
	扉ハンドル	非鉄金属							
	扉パッキン	合成ゴム・樹脂							
接続部	端子台	銅 プラスチック 樹脂絶縁部 ねじ	外部との接続	環境	接続不良 締付け部の緩み	<p>腐食の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良</p>	修理	2	動作状況 接続状況
配線	配線	銅 ビニル被覆 エチレン樹脂	各部接続	環境	断線	<p>ビニルの変質硬化 → 断線</p>	修理	2	腐食、破損、変形
	配線コネクタ	コネクタ 結束材料 圧着端子	接続材料	環境	接続不良	<p>疲労の進行 → 接触不良 → 動作不良 → 警報制御不能</p> <p>接触部の緩み → 接触不良</p>	修理	2	接続状況

劣化進行速度 1:比較的早く進行 2:緩慢と進行 3:電流・動作回数に依存